

双松会会報

第44号「双松会」通巻48号「松高北高同窓会報」通巻48号

発行 松江市奥谷町164番地

島根県立松江北高等学校内 双松会事務局

TEL : 0852-21-4888

FAX : 0852-21-4977

印刷 有限会社高浜印刷

TEL : 0852-36-9100

青春グラフィティー

Vol.21

普通科32期・理数科11期

有木 健二

はじまりは赤山校舎& 百周年祝賀行事

私たちが入学する前月の昭和53年3月に川津校舎との離校式に続き赤山校舎への入校式が行われたと聞く。そしてこの年の4月、私たちは新築・移転した赤山校舎の最初の入学生となったのだ。また、5月には二年先送りになっていた開校百周年行事が校舎竣工の祝賀行事にあわせ、それはそれは盛大に祝われた。地方から出てきた私はもちろん、高校生になったばかりの同級生も「これが名門松江北高か!」と驚いたに違いない。さらに堂々たる同窓会館「起雲館」も建設されるなど、昭和53年は松江北高の長い歴史の中でも多くの同窓生や関係者の方々にとって忘れられない年であったことだろう。

◆寮生活・下宿生活

寮生活ながら当時の個人的な思い出を三つほど。
寮生活は、当時、楽山にあった男子寮ではじまった。初めての個室にニマリ、先輩方との共同生活も新鮮だった。朝と夜の点呼、一緒に風呂に入り、寮母の田中さんが作る料理を腹一杯食べる毎日。総合体育館でのレクリエーション、クリスマス

会などの行事もあった。先輩方には友達づきあいのこと、恋愛の話、勉強の仕方? などずいぶん面倒を見てもらい感謝している。また、寮や下宿の同級とは家からのお土産を分け合って食べたり、ふるさとの話をしたりできる家族のような存在だった。心地よい寮生活や、ここには書けない楽しすぎる下宿生活の一方で、勉強の方は見事に低迷。ついて行けず、どんどんおいて行かれる現実に変な焦りと妙な苦しみを感じていた。でも、そんな私を救ってくれたのは、寮の友達であり一緒に悪さをした下宿仲間たちであり、同級生たちだった。「お前バカだなあ」などと遠慮なく言ってくれる。できないなりに努力をしろと言ってくれる。背伸びせず等身大で行こうぜと並んで歩いてくれた。本当に感謝している。

◆松江北高ここにあり

当時の私にとって松江は憧れの場所であった。特に、その象徴「畑パート」があった殿町から京店、松江大橋あたりを土曜夜市などに歩くのが好きだった。そして、松江の風物が歌われている北高の校歌が大好きだった。

そんな校歌の三番の一節、松江北高ここにあり。を一度だけテレビで耳にしたことがある。それは高校3年生の冬、男子バスケット部がJOTK杯で見事優勝を果たした時のことだ。決勝戦のテレビ中継を見て北高の優勝に歓喜している中、試合後の優勝監督インタビューとなった。そのインタビューの最後に目次先生が「……松江北高ここにありです!」と感無量の表情で締めくくったのであった。実にかっこいい! なにかしら誇らしく、晴れ晴れとした気持ちになったのを覚えている。

◆ととのえる
話は前後するが、百周年の記念講演は、赤山に近い万寿寺のご住職、勝平宗徹先生の「ととのえる」と題した講演だった。その時に聞いた、ととのえる、という響きはなぜか私の記憶に残り続けた。

当時の同窓会誌を読み返すと、勝平住職の講演要旨が掲載されていた。大雑把にまとめると、住職は釈迦の言葉を引用されながら「……『おのれこそ、おのれのよるべ』。『よるべ』とはよりどころである。よりどころとなる自分を作るためには、自分をよく『ととのえ』なければならぬ。体をととのえる、呼吸をととのえる、心をととのえる、それは『調える』と書く。静かな心でこれから向かうことに取り組んでいく。体究錬磨、調えるための不断の努力がこの世を有意義に送ることにつながる。……』」ということを話されたよう

だ。漢字では「調える」であったのか! 「調える」……なるほど。私たちの年代も還暦を迎え、改めて思っているのではないだろうか。勝平住職のおっしゃったように心と体を調べて、おのれがおのれのよるべとなるように。でも、これからは誰かによるべにしながら、そして誰かよるべになりながら生きていきたいものだ、とも。





退任のあいさつ

前会長 金津 任紀

高16期

灼 夏の太陽が照りつける盛夏を迎え、ひとときの涼が恋しくなる今日この頃、会員の皆さまには益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。平素は、双松会の事業運営につきまして、何彼とご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、私こと 金津任紀は、令和5年7月9日の幹事総会をもって会長職を退任することになりました。平成27年7月、前任の庄司肇会長から、はからずもバトンを受け継ぎましたが、皆さまの温かい励ましとご支援により無事8年間大任を果たすことができました。ここに衷心より役員の方々、同窓生の皆さま、そして学校関係者の皆さまの温かいご指導とご支援に感謝を申し上げる次第です。今後は、私の後任として快くお引き受け頂いた櫻井誠己新会長をリーダーとする新体制の下、母校の伝統精神である「文武両道」と「質実剛健」の不易を大切にしつつ、時流を見据えた新たな時代の会のあり方を切り拓いていただくことをお願いいたします。

振り返れば、母校を巣立ってちょうど半世紀になる年に会長就任という何かの縁を感じさせるめぐりあわせで、当時、非常に感慨深いものを覚えたことを記憶しています。在任期間中は、多くの同窓生と触れ合う機会を得、旧交を温めることができました。また、東京、近畿、広島、米子などの地区双松会の総会にもお招きいただき、県外在住の皆さんとも久しぶりにお会いし、昔話や近況を語り合ったことも忘れられない思い出です。一方で、コロナ禍が足掛け3年に及び、私たちの社会生活に大きな影響を及ぼす中、在任期間の後半は事業活動が制約され不本意な会の運営を強いられ、心が少し心残りです。しかしながら、二度にわたる周年事業をはじめ、松くい虫や大雪による被害を受けた北高の象徴である「二本松」を蘇らせる植樹、タイムリーな情報発信を行うためのホームページの立ち上げ、運用など、私なりに達成感を覚える活動もありました。とりわけ、創立140周年記念事業の一環として次代を見据え国

際力を身につけるべく、生徒像に「世界の人たれ北高生」を掲げ、教育プログラムの開発、実践が行われたことは、昨今叫ばれる高校魅力化や特色ある学校づくりという観点で大変意義深く充実感を覚えます。

一世紀半に及ぶ伝統ある双松会の会長の職に就かせていただきましたことは、私にとつて大きな誇りです。この貴重な経験を糧に今後の人生の一助としたいと考えています。私にとつてかけがえのない8年間を通じて母校への愛着が一層深くそして強くなりました。会長職を退いたのちも、北高卒業生の一人として微力ながら応援していきたいと考えています。

終わりに、母校北高と双松会の益々の発展並びに会員の皆さまのご健勝ご多幸を祈念いたしまして退任のご挨拶とさせていただきます。



新任のあいさつ

新会長 櫻井 誠己

高20期

双松会の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より本会に対しまして何かとご高配を賜り厚くお礼申し上げます。私は、この度前任の金津任紀氏から伝統ある双松会の会長を僭越ながらお引き受けすることになりました昭和44年高校20期卒業の櫻井誠己でございます。諸先輩方が築いてこられた歴史と伝統、その重みに身の引き締まる思いでございます。金津前会長には平成27年より8年間にわたり、その高い見識と優れた指導力で本会の運営に当たられ会員相互の交流、

親睦はもとより母校の発展のためにご尽力されました。そのご功績に対し心より敬意を表するとともに感謝を申し上げます。今後は引き続き顧問として大所高所からご指導のほどよろしくお願いいたたく存じます。私も微力ではございますが、双松会役員の方、教職員の方、事務局の方、そして多くの会員の皆様のご支援、ご協力をいただきながら重責を果たしていく所存でありますので何卒よろしく願ひ申し上げます。

松江北高等学校の歴史は明治9年3月松江教員伝習校変則中学科として松江市殿町に誕生、同年10月に教員伝習校が師範学校と改称されたのに伴って松江師範学校変則中学科となり、そして翌年に同校から独立し松江中学へ、戦後の学制改革により昭和24年に松江高校が誕生、さらに統合再編により今日に至っています。明治8年末までに公立中学校が全国で10校であり9年末には19校になっていますので全国でも極めて早い時期での始まりとなります。創立の明治9年は1876年でありまして2026年(令和8年)が150周年であります。明治、大正、昭和、平成、令和に渡つての変遷、赤山から西川津へ、また赤山への歴史を振り返り150周年の重みをひしひしと感じているところであります。私の在学中(西川津校舎)より松江北高の精神は「質実剛健」であると教えられていました。明治40年に校訓として「質実剛健」が制定され、赤山の二本の松をこの象徴として位置付けたとされています。双松会の由来を思う時、伝統ある本会を次の世代に繋げていくことが私の務めであると思うところであります。最後に会員の皆様のご健勝、ご発展をご祈念申し上げますと共に双松会へのご参加ご協力をお願いし、ご挨拶とさせていただきます。



学校長あいさつ

校長 木原 和典

双松会の皆様方には日頃から母校に対しまして、多大なるご支援とご協力をいただきありがとうございますこと、心より感謝申し上げます。

今年度は新入生として、普通科77期生240名、理数科56期生40名の合計280名を迎えました。新型コロナウイルス対策が新しい段階に移行した中、入学定員いっぱいの子供たちを迎え、活気のある学校生活が進んでいます。

昨年18年ぶりに北高に勤務し、一年間生徒たちと共に生活して、生徒たちが以前と比べて大変おとなしくなったという印象を持ちました。しかしそれは、意欲が低下したとか消極的になったということではなく、表面には表さない心の強さや粘り強さを持った生徒が増えたということなのだと思ってきました。今年度の3年生が入学する時から、松江市内の県立普通科高校3校に対して設定されていた学区が撤廃され、「北高に入学したい」という意志をより明確に持った生徒たちが入学してきているということもあるのか、何事にも真面目に粘り強く取り組もうとする姿が多く見られています。今年3月に卒業した生徒たちの姿もそのようなものでした。6月に行われた県総体では、結

果的には総合成績は9位でしたが、その後受験などの進路決定に向けて粘り強く取り組み、東京大学に現役2名、京都大学に現役4名既卒1名、国公立大学医学部医学科に現役9名既卒5名合格など、目覚ましい結果を残しました。県内の公立高校をリードする北高の姿を改めて強く印象づけるものとなりました。

このような成果を継続して残していくためにも、私は北高で取り組んでほしいこととして「読む力」「書く力」「伝える力」の育成を、今年度も重点目標の一つとして教職員に示し、生徒にも話しています。単に受験に対応するためだけの勉強ではなく、AI技術のすさまじい進歩などによる社会の急速な変化の中でも必要とされる力として、文献などの資料や統計、データを読む、筋道を立ててわかりやすく文章を書く、自分の考えを的確に言葉にして伝える力は、これからも非常に重要なものです。そしてこのような力は、文武両道の精神を大切にして、日常の授業はもとより、学校行事・生徒会活動・部活動など、あらゆる活動の場面で育成する必要があると考えています。これからの将来を生きる生徒たちが、北高でしっかりと力を養い社会で活躍してくれるよう、取り組んで参ります。

引き続き様々な面でご支援いただければ幸いに存じます。最後になりましたが、双松会の皆様方の益々のご活躍とご多幸を祈念いたしまして、挨拶いたします。

事務局だより

一、「世界のたれ北高生！基金」について

140周年記念事業で設立されたこの基金のご寄付によって、北高生が様々な活動を行っています。令和3年度より再開したエンパワメントプログラム(今年度よりグローバルスタディーズプログラムに改称)を昨年12月に希望する生徒が参加して実施しました。生徒には参加費用を基金より補助していただいています。

このプログラムでは、生徒が外国人留学生と5日間を英語のみのアクティビティを行います。今回も、参加した生徒それぞれがこれまでの自分の殻を破り、大きく成長する活動となりました。今年度は、このプログラムに加えて、新型コロナウイルス感染症の影響で中止していたグローバルリーダー養成プログラムについても再開する予定です。このプログラムについて基金より参加費用の補助をいただいております。

この他にも、「世界のたれ」講演会も昨年6月に開催しました。詳細につきましては本会報の7頁をご覧ください。

今年度につきましては10月16日(月)に、東京大学未来ビジョン研究センター教授高村ゆかり氏(普通科34期)のご講演を予定しています。この基金の趣旨を多くの方にご理解いただいていることで、北高生にとつて実りある事業が展開できていることに感謝申し上げます。



なお、ご紹介しました活動につきましては、双松会ホームページのブログにて配信しております。是非下記QRコードよりご覧ください。

二、起雲館のICT環境整備について
卒業生会館である起雲館にICT環境を整備することになりました。現在教育現場では、ICT機器の活用が進んでいきます。島根の県立高校でも、現在の2年生から入学時に一人ずつ端末を購入し授業や家庭学習において活用を進めているところがあります。教員も授業用のパソコンを活用して学習指導を行っており、教育活動に通信環境の整備が欠かせない状況となっております。こうした状況の中で、補習科生、本校生徒が学習活動を行う起雲館についてもICT環境整備が必要となりました。そこで、令和5年度松江北高教育後援会基金特別会計からご支援を頂き、無線ネットワークの整備を行うこととなりました。このことにより、今後充実した教育活動が進められることとなります。

三、各地区の双松会の動向について
○東京双松会の総会
令和5年10月14日(土)
於…品川プリンスホテル

○近畿双松会の総会
令和5年11月25日(出)
於…中央電気倶楽部

○広島双松会の総会
令和5年11月11日(出)
於…ホテルメルパルク広島

○米子双松会の総会
令和5年7月23日(日)
於…米子ワシントンホテル
ラザ

○通信制双松会の総会
令和5年10月15日(日)
於…サンラボ一むらくも

四、寄付金のお礼(昨年の7月以降)
次の方々より、寄付金を頂いております。ご披露に合わせて厚く御礼申し上げます。
10期同窓会様より
2万5654円

令和4年度理数科研修費会計より
34円
令和5年3月卒
(普通科74期・理数科53期)会計より
20円

五、その他
150周年事業に向けて記念館の資料整理を続けてまいります。残したい資料や写真等をお持ちの方は、事務局までご連絡ください。

令和5年度双松会幹事総会報告

7月9日(日)サンラポーむららもにて「令和5年度双松会幹事総会」が開催された。約70名の幹事が出席し、17時から約1時間半に及び審議した結果、全て承認された。

【議題】

- 1、令和4年度会務報告
2、令和4年度決算報告
3、監査報告
4、「双松会会則」の改定(案)
5、令和5年度役員人事(案)
6、令和5年度双松会幹事(案)
7、令和5年度会務計画(案)
8、令和5年度会計予算(案)

【報告】

- 1、名簿について
2、会報について
3、HPについて

令和5年度双松会役員

- 顧問 松本 幹彦(高1)
庄司 肇(高11)
金津 任紀(高16)
櫻井 誠己(高20)
副会長 金平 憲(高16)
庄司 尚史(高23)
吉岡佐和子(高36)
木原 和典(北高校長)
勝部 昌幸(高21)
河原 一朗(高23)
泉 雄二郎(高26)
小山 理久(高28)
景山 直観(高31)
幹事長 糸川 孝一(高31)
副幹事長 石原俊太郎(高35)
監事 西村 康(高20)
杉原 伸治(高30)
事務局 石飛 憲(北高教頭)
*役職の変更

常任幹事

- 吉金 隆(高19)
松田 龍志(高21)
西尾 俊也(高22)
玄行 登(高23)
永井 隆(高26)
皆美 佳邦(高27)
岡本 隆志(高28)
長崎 悦子(高29)
林原 幹治(高29)
鷗鶴 順(高29)
藤井 徹(高29)
貴谷 紘行(高31)
石倉 弘文(高31)
馬庭 伸行(高34)
金井 寿彦(高34)
細木 明美(高35)
田邊 真司(高36)
高浜 澄子(高36)
岩本 雅之(高38)
伊藤 尚子(高40)
武藤 立樹(高42)
安松 崇徳(高43)
木村俊一郎(高43)
永通 桂(高43)
裏辻 雅教(高46)
野津 良幸(高47)
肥後 淳平(高47)
田部長右衛門(高49)
並河 元(高49)

令和4年度 双松会会計決算書

収入総額 5,741,813
支出総額 3,497,854
差引残高 2,243,959

Table with columns: 科目, 予算額, 決算額, 増減(Δ), 備考. Includes sections for 収入 and 支出.

監査報告

令和4年度双松会会計について、帳簿・証拠書類等を監査した結果、適切に処理されていることを認めます。

令和5年 栗原康郎 令和5年 杉原伸治

令和5年度 双松会会計予算書(案)

Table with columns: 科目, 本年度予算, 前年度予算, 増減(Δ), 備考. Includes sections for 収入 and 支出.

双松会地区だより

東京双松会

東京双松会 事務局長 森岡 正士(高31期)

初めまして、今年4月から事務局長になった森岡正士と申します。出身は江津市で、昨年3月末に37年間勤めた金融機関を60才で定年退職し、セカンドライフは「会社貢献」から「社会貢献」に切り替えて地元湘南を中心に活動しています。

同級生の糸川前事務局長から「幹事を引き受けて欲しい」と頼まれて快諾し、今年4月に初めての幹事会に参加したところ自分が「新事務局長」としてメンバー紹介されて驚きました。……これも何かのご縁と思いい、事務局長を「社会貢献」活動の一つと捉え、皆様のお役に立ちたいと思っています。

早速の初仕事は品川プリンスホテルで4年ぶり開催となる東京双松会第68回総会です。現在以下の3点を意識して準備をしています。(1)とにかく、明るく、楽しく!(2)来年も行きたくなるワクワクする内容(3)時間はコンパクトに(約2時間半)

若手・中堅層にも積極的に参加してもらい、総会終了後に「楽しかった」「ためになった」「また行きたい」と感じてもらうと思っています。

特に前半の講演で、人生の数々の困難に直面しながらも Super Positive Thinking で乗り越えてきた経験談は必見です。10月14日(土)12時に品川プリンスホテルでお待ちしています!

お問い合わせ先: 東京双松会事務局 〒102-10084 千代田区二番町1-13 「中央印刷事務器(株)内」 TEL 03-3265-48558 https://tkosho.qwc.jp/index.html



近畿双松会

近畿双松会 事務局長 央道 弘志(高31期)

令和4年度の近畿双松会最大のニュースは、3年ぶりに総会を開催できたことです。新型コロナ禍が終わり切らない時期で、例年より参加者はやや少なくなりましたが、それでも73名の方にご参加いただき、講師には土岐祐一郎氏(高30・理9、大阪大学消化器外科学教授、前大阪大学医学部附属病院長、ご父君は北高で長く数学教諭を務められた土岐俊一氏)を迎え、充実した総会となりました。総会以外にも、令和4年7月には文楽鑑賞会、10月に歴史ハイキングを開催するなど、ようやく平常運転モードに戻ることができました。

近畿双松会は今年で設立65周年を迎え、11月25日(土)には記念総会を開催する予定です。この活動を将来世代に引継いでいけるよう、中堅・若手会員の参加拡大に引き続き取り組んでまいります。

これからも情報を逐次、ホームページ、メールマガジン、LINE@で発信していきますので、ご注目をお願いします。メールマガジン、LINE@が未登録の方はぜひ受信手続きをお願いします。(一方だけでも可)

お問い合わせ先: 専用アドレス: master@kinki-soushoukai.org

近畿双松会ホームページ: http://www.kinki-soushoukai.org/ QRからもアクセスください。

「メールマガジン」登録: QR、ホームページ、専用アドレスからメールアドレスを登録ください。専用アドレス: kinkisoushoukai-net@kinki-soushoukai.org

「LINE@」登録: QRからお名前、卒業期を登録ください。



米子双松会

米子双松会 事務局長 中西 秀夫 (高15期)

新型コロナウイルスの影響で、この3年間ほとんどの事業を中止(ゴルフ部会のみ年間10回のコンペ実施)せざるを得ませんでした。本年5月8日の各種規制や対策が緩和されたのに伴い、3年ぶりに活動を再開することになりました。

7月23日に総会と納涼会を開催し、本会副会長でもある大先輩の宮本久子氏(昭和29年卒・松高5期)の講演「山陰初の民放(現BSS山陰放送)はパチンコ屋の2階から生まれた」を拝聴します。秋には旅行部会で楽しい旅行を計画中です。ゴルフ部会は引き続き年10回のコンペを行います。

また今年には役員改選で新役員が決定します。この近年、本会への若手の新入会員もなく、ますます高齢化が進んでおり、各種行事への参加も年々減少し寂しくなっております。

しかし、まだまだお元気な先輩方に支えられなんとか持ちこたえております。米子周辺に住まい・勤務されている方々のご入会をお待ちしております。

連絡先 米子双松会事務局 中西秀夫 〒689-1340 米子市淀江町淀江771 TEL&FAX 0859-15612315

広島双松会

広島双松会 副幹事長 渡部 賢 (高36期)

広島では、先進国首脳会議が5月に開催され、全国から集結した2万人以上の警察官の警備のお陰で無事に終了いたしました。屈強な警察官と警備車両がこれほど集まると、会期はかなり前から市内は随分と物々しい雰囲気となっております。また、事業所には出勤抑制・休業の要請があったり、広島東洋カープは2週間の長期ローストに出掛れたり、広島最大イベントのフーラーフェスティバルは、ゴルフデンウィーク開催が6月開催になったりと、市民生活には様々な不便・制約等が生じました。

しかしながら、つい先頃迄は、コロナ感染に怯え家に閉じ籠り、いつ開けるとも解らぬ自粛のストレスと将来への不安を感じていた時の事を思えば、この程度の不便・制約などなんのその、むしろこれだけの行事を無事に行える社会が戻って来たのだと、嬉しく思ってしまったのは私だけでしょうか。

さて、当会では、コロナ禍により令和元年の総会開催以降、対面行事は一切行っておりませんでした。今年度は左記のとおり開催予定です。(6月現在)会報をご覧いただいた広島市近郊にお住まいの方のご参加、事務局へご連絡を心よりお待ちしております。

行事予定

①納涼親睦会 日時:令和5年7月14日(金) 18時30分

場所: 広島市東区本郷 ②17回総会・懇親会 日時:令和5年11月11日(土) 16時~19時

場所: ホテルメルパルク広島 (広島市中区基地町) お問い合わせ先: 広島双松会副幹事長 渡部 賢 〒733-0876 広島市西区高須台3-6-10 TEL&FAX 082-273-8204

携帯電話 080-3871-3331 e-mail rskpnp2002@sky-megag.jp

通信制双松会

通信制双松会 会長 野津 裕

左記により令和5年度総会及び懇親会を開催予定です。皆様にご案内します。

日時 令和5年10月15日(日) 14時00分より 場所 松江市殿町369 サンラボーむらくも ☎0852-121-2670

会費 6500円 参加申し込みは、住所、氏名、電話番号、卒業年を明記し私宛ハガキで申し込んで下さい。 〒690-0015 松江市上乃木9-12-11 野津 裕

090-7773-8873 詳細は参加申込者に後日連絡します。

スサマジと松江北高 川津校舎 跡地について

通信制双松会 副会長 坂本 育穂

令和3年の双松会報第42号に紹介された松江北高川津校舎跡地を池田博吉さん(通信制平成21年卒業)が訪れたが現場の駐車場は草ぼうぼう。東端角にやと二つの記念碑を見つけた。「質実剛健」と「若かりし日の我が夢ぞここに狭霧ふ松江北高跡地の碑」である。義憤然し難く、同地内の松江市管理事務所に要望。後日除草や注意看板などの設置があったとのことだ。池田さんは出雲市在住71歳、川津校舎、赤山校舎、実道校舎の3校舎で通算35年間通信制で学んだ人だ。先頃、西部地区制覇を狙ったスサマジが活躍した市立体育館の眼前にはあるがこの地に気づく人は稀。双松会の「文化財」であり、双松会の「支援」が必須と池田さんは熱く語る。



特集
部活動紹介 / 野球部

今年で105回目になる夏の全国高校野球予選大会が間もなく開幕しようとしています。例年この時期は厳しい暑さが予想されますが、高校生の真剣に切磋琢磨してきた力を存分に発揮する姿は、多くの方に感動を与えるものになっています。

本校野球部はこの大会の皆勤校として出場しています。100回の記念大会では、その当時の主将が代表として、阪神甲子園球場において入場行進に参加しました。

そんな歴史ある本校野球部ですが、今年の大会に選手として登録しているのは、三学年合わせて10人と非常に少ない人数となっております。様々な要因があると思いますが、年々部員数は減っている状況です。

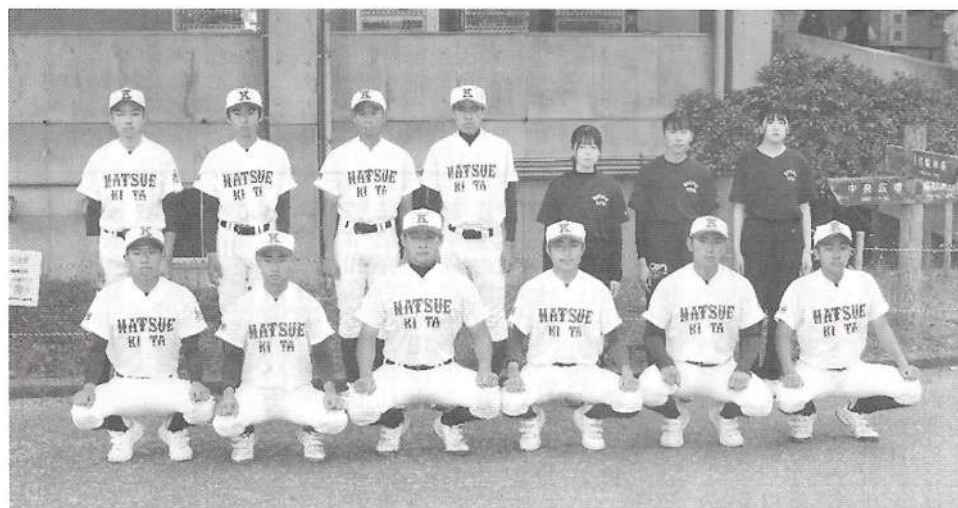
本校のみならず野球の競技人口減が目立ってきています。そんな中でここ数年保育園や幼稚園に向いて実施している「野球教室」の成果なのか、小学生の野球活動者が増えているとの話を伺いました。今後このような活動を続けて、広く野球の楽しさや喜びを実感できるようにしてもらい、益々の高校野球の発展に繋がってくれればと思っております。



雨天時も活動できる多目的練習場



園児とキャッチボールをしている様子



精一杯戦い抜きます!

現部員の選手・マネージャーは少ない人数を言い訳にせず、必死に「文武両道」を邁進しております。夏の大会では「松江北高校ここにあり」と高らかに響かせるべく追い込みに入っています。これからも松江北高、そして松江北高校野球部をどうかよろしくお願いいたします。

北高生の活躍

島根県高等学校 総合体育大会

男女総合14位 (男子総合11位)(女子総合13位)

5月下旬から6月上旬にかけて第61回島根県高等学校総合体育大会が行われました。各部熱戦を繰り広げた結果、男女総合(Aグループ)第14位となりました。各部それぞれ目標に向かい、全力を尽くしました。7月下旬から北海道で開催される全国高校総体(インターハイ)、またプロック地区大会(中国大会)に出場するチーム・選手を紹介します。

全国大会

女子ボート

- 3年 米原もみじ
- 2年 山野内聡香
- 1年 有本真結子
- 中島 詠美
- 荒河万優子
- 吉原 れい
- 原田緋那子

登山部

男子団体

- 3年 三上 征成
- 3年 三好 海都
- 2年 木戸 健太
- 2年 縄田皓太郎

女子団体

- 山本 珠緒
- 木建 七海
- 奥野 真汎
- 江木 千尋

中国大会

新体操部

- 2年 影山 春奈

男子卓球部

- 3年 佐々木 樹

女子卓球部

- 2年 清水 勇希
- 3年 福庭 萌子
- 2年 水津 陽
- 3年 中田 歩
- 2年 柳浦あずさ
- 1年 牧野 桃子
- 1年 福庭 笙子
- 2年 渡辺 咲樹
- 2年 勝部 友菜

陸上競技部

- 3年 池田 紗季
- 2年 大石 ゆう
- 2年 森吉 日向
- 1年 野津ここな
- 1年 藤田龍之介
- 1年 石川 茜
- 1年 和田 尚子

男子ボート部

- 3年 花岡 大輝
- 3年 三井晴太郎
- 2年 湯浅 壮也
- 2年 岡田 篤弥
- 2年 大庭悠太郎
- 2年 奥原 元気
- 2年 藤井 晶文
- 2年 金坂 拓磨
- 2年 野村 一翔

女子ボート部

- 3年 米原もみじ
- 2年 有本真結子

弓道部

- 3年 大西 佑奈
- 3年 山本 真子
- 3年 國須 あい
- 3年 大草 優月
- 3年 藤田真由香
- 3年 吉田 夏野

男子テニス部

- 3年 田代 経
- 3年 清井 晃成
- 2年 勝部 篤輝
- 2年 松本 翼
- 1年 大國 成登
- 1年 原 俊輔

水泳部

- 3年 山崎 綾花
- 2年 松浦 航希
- 2年 青山 竜也
- 2年 石井 康介

自転車競技

- 3年 寺本 将輝

レスリング

- 2年 高村 雄風

文化部の活躍

県内予選を通過し、7月8月に鹿児島で行われる全国高等学校総合文化祭に出場する部を紹介します。

百人一首かるた部

- 3年 花岡 礼子
- 2年 小塚 侑
- 栗岡佑万子

囲碁将棋部

囲碁

- 3年 木戸 健太

将棋

- 2年 中村 優樹

女子団体

- 2年 笹野 里奈
- 2年 市場 結衣
- 2年 引野 粹連

放送部

- 3年 井川 彩音
- 3年 小池 瑞希

弁論大会部門

- 2年 門脇 由果

その他の全国大会

囲碁将棋部

全国高校囲碁選手権
男子個人

- 3年 木戸 健太

放送部

NHK杯全国高校放送
コンテスト

- 3年 井川 彩音
- 1年 若村 杏

英語弁論大会

- 1年 若村 杏

「世界の人たれ 北高生!基金」の活動報告

「世界の人たれ講演会」

令和4年6月9日(木)

本校卒業生である、大阪大学医学部医学系研究科 外科学講座消化器外科学 教授 土岐祐一郎先生を講師としてお招きし、「外科医という仕事を選んで」という演題で講演していただきました。

お父様が松江北高校の数学教員であったことから、旧川津校舎敷地内にあった教員官舎で幼少期を過ごされた土岐先生は、高校時代、担任の先生に

叱られた話や大学での成績表など、学生時代どのように過ごしてきたかを、会場の笑いを誘うユーモアを交えてお話しくださいました。大阪大学医学部進学にあたっては、高校生のときに読んだ小説のモデルに憧れがあった、とのことでした。

医学部を卒業され、「外科」を診療科として選ばれたあとは、先輩医師に言われた「動かさずに後悔するより、動いて後悔しろ」という言葉どおりに、患者様に迷惑はかけられないとより多く接し、勉強や努力を重ねられた結果、「得られたものは、患者様からの信頼と感謝の言葉」だったそうです。

講演の最後には、「逃げるは恥だが役に立つ」「努力しない夢は意味がない。努力することが大切」「少しだけ背伸びをしよう」「上手くいかなかった手術のことで落ち込んでいた暇はなかった。次にどうするかを常に考えた」など、前向きになる心強いメッセージをいただきました。大変貴重な学びの機会を与えていただけたいことに感謝し、ご報告にあわせて厚く御礼申し上げます。



本年度の進路状況

進路部長 富田 一志

(理数科12期)

2023年度大学共通テストが行われた。受験者数は、前年から17786人減の51万2581人で5年連続の減少。一方で国立大学一般選抜志願者総数は前年から5492人減の42万3千131人。三年目の共通テストの平均点は、ベネッセコーポレーション推定で、文系532点、理系551点(いずれも900点満点)と、いずれも前年度対比では、文系が24点アップ、理系は38点アップであった。大幅アップとなった要因は、数学①(17・7)、数学②(18・4)、日本史(6・9)といった科目の平均点アップである。学部系統別の志願者数を見ると、国立大で歯学部、生活科学、医学、経済・経営、社会、総合科学、芸術・保健衛生などで増加が目立っている。コロナ禍で減少傾向が続いていた語学、国際関係では志願者が減少しており、外国語は4年連続の減少となっている。医療系はコロナ禍により話題性が依然として高いことに加え、厳しい経済状況の中でも職業直結型の系統であることから高い人気が維持されている。

本校生徒の入試結果を振り返ると、国立大学合格者数は、現況合わせて延べ193で、昨年から5減少しましたがほぼ同数を維持した。前期合格者数が

昨年(165)とほぼ同数の166、中後期合格者数が昨年の33からやや減少し27であった。共通テストの点から見ると共通テストの持ち点では負けている状況で受験した者が多かったのだが、よく踏ん張って逆転したケースが多かったのが今年の特徴である。いわゆる難関10大学(旧帝国大7大学+一橋・東京工業・神戸)の合格者数は20で昨年の22とほぼ変わらず。特に京都大学現役4人合格は昨年に続き例年にならない数字で生徒がよく頑張った結果である。国立大医学科は14で久しぶりに10人を越える合格者になった。今回の共通テストでは全国の既卒生(浪人生)が5143人減少し過去最少の志願者数であった。昨年度と同様に、浪人生の少ない現役生中心の戦いであったと思われる。平均点設定を50%にする等話題の多い共通テストだが、3年目の今回、平均点自体は大きくアップした。この平均点変動の影響もあり、本校生の中にも動揺する者も見られたが志望を貫き、所謂、D、Eという可能性の低い判定で志望校にチャレンジし、合格を勝ち取った者が多かったように感じる。

現2年生から教育課程が変わり高校の教育も大きく変わりつつある。学習評価に関して高校においても観点別評価が本格的に導入され、調査書の形式も変わり、様々なことが変化している。

この改革は、先行き不透明な社会を生き抜く力をつけるために、大学教育・高等学校教育とその2つをつなぐ大学入学者選抜を三位一体で改革する「高大接続改革」の一部で、大学教育・高等学校教育の改革は既に進行している。また、大学入学者選抜においても、入試問題の質や、入試形態が変化しつつある。入試改革では、面接試験での自分のその大学に対する思いが重視され、プレゼンテーションを課す大学も増えている。島根大学では昨年度から「へるん入試」という名前でも新しい総合型選抜入試も実施されている。

この改革の源流は、「社会がどのような人材を求めているか」としては、「どのような人材にとつては、「どのような人材になるか」という問題を「自分事」として考えてみるということである。自分がどんな力をつけ、どんな形で社会に貢献し、人々を幸せにするためにどう生きるのか、そんな「生き方」を考え、次のステージを選択することが重要になる。それが所謂、将来の「夢」につながる。その夢に対する思いが強ければ強いほど、目の前の高い壁に向かう意欲が強くなる。次のステージに向けて壁を乗り越えることこそが「受験」である。北高では、何度も何度も担任との面談を繰り返して、何度も進路希望調査を行う中で、自分の「生き方」を考え、そのために必要な力をつけるための努力を継続する。その過程では大きな苦しみを伴うことも少なくない。特に現役生にとつては、何もかもが初めての経験で、手探りで

編集後記

盛夏を迎え、双松会の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症により大きく変化し、制限ばかりだった私たちの生活も徐々に落ち着き、学校での学習活動や各種行事が従来の形を取り戻しつつあります。新学習指導要領の実施、そして「一人一台端末」が導入されて二年目となり、生徒たちは授業内外において様々な形でICTを活用しながら、学びを自らの力でコーディネートしています。時に何も教えないにも関わらず、端末のあらゆる機能を上手に使いこなしている姿を見て、生徒たちの持つ柔軟さや創造力に驚かされています。

私は今年度から北高に赴任してきました。自分が高校時代を過ごした校舎を懐かしく感じるとともに、今度は教員として母校に関わることができていることに大きな喜びを感じています。生徒たちが日々前向きに学び、そして社会に出たあとも自信を持って力強く歩んでいけるよう、私自身も日々学び続け、生徒たちの成長に繋がっていきたく思います。

最後になりましたが、お忙しい中、原稿を執筆いただきました皆様、誠にありがとうございました。そして、すべての双松会の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

(事務局)

進路状況

令和5年度入試学校種別合格者延べ数及び就職者数(令和5年4月集計)

卒業生	令和3年3月			令和4年3月			令和5年3月		
	現	卒	計	現	卒	計	現	卒	計
国立大学	116	22	138	127	32	159	125	26	151
公立大学	28	6	34	39	0	39	37	5	42
私立大学	258	74	332	287	69	356	222	45	267
短期大学	16	2	18	8	0	8	13	1	14
専門学校	13	1	14	13	1	14	4	1	5
就職			0			0			1
合計	431	105	536	474	102	576	402	77	479
クラス数	7クラス			7クラス			7クラス		

模索が続く。しかし、その経験を乗り越えたとき、知らぬ間に本気で「生き方」を考え、前に進むことができるようになる。

入学時のコロナウイルスの流行による長い休校からスタートし、県総体・インターハイの中止、各種コンクール等の中止、分散登校の実施を経験し、2年生のときには多少落ち着きインターハイなども実施されたが例年とは違うことが多かった今春の卒業生であった。しかし、先にも挙げたように、京都大学現役4名合格をはじめとして、受験に関しては大きな成果を残してくれた。教育課程も変わりつつあり、共通テストにおいては「情報」の新設、「国語」の内容も変化する。新しい時代を生きていく生徒達に対して我々はどういう教育をしていくべきなのか。北高が試される時代が来ている。